CPD/CPDS対象

昭和58年山陰豪雨災害（島根県浜田市中場地区）

炊き出し防災訓練（多根の郷）

斜面対策工事

土砂災害防止啓発紙芝居

平成19年隠岐豪雨災害（隠岐の島町都万）

平成25年度（第31回）

土砂災害防止「全国の集い」 in島根

テーマ

漸（ぜん）に杜（ふさ）ぎ、萠（ぼう）に防（ふせ）ぐ

～30年前の警告は「未来への備え」～

日　時／平成25年6月5日（水）
会　場／島根県民会館
主　催／国土交通省、島根県

みんなで防ごう土砂災害
土砂災害防止月間 6/1→30
がけ崩れ防災週間 6/1▶7

開催要領

開催目的

一昨年に紀伊半島に豪雨をもたらした台風12号、昨年7月の九州北部豪雨など、近年の猛烈な台風やゲリラ豪雨による被害が全国各地で頻発し、自然災害の脅威を改めて再認識させられました。

本県は県土の大半が急峻な山地で占められ、地質的にも全域が浸食を非常に受けやすい土壌であるとともに、そこに多くの人々が居住していることから、土砂災害危険箇所が全国2番目に多く、過去にも幾多の大きな災害に見舞われてきました。特に昭和58年の「山陰豪雨災害」では、島根県全域で1,067 件の土砂災害が発生。被害の大きかった県西部　浜田市、益田市、三隅町の3市町では、87名もの尊い人命や多くの財産が失なわれ、土砂災害対策に対する意識が一気に高まる契機となりました。しかしながら災害から30年が経過し、記憶の風化が危惧され、地域住民の危機意識は薄れている状況もあります。

この「全国の集い」は、現在の土砂災害対策を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中、本県における砂防の歴史を振り返りながら、土砂災害対策の今後の方向性について住民の理解と関心を深め、人命、財産被害の軽減を目指し、災害への備えを再度見つめ直す機会とすることを目的として開催します。

開催テーマ

『漸(ぜん)に杜(ふさ)ぎ、萠(ぼう)に防(ふせ)ぐ』
～30年前の警告は「未来への備え」～

※「危険なことに対しては常に注意をはらい、その兆があれば速やかに手当をすべし」という意味の中国の故事を指す。

開催日時

土砂災害防止「全国の集い」・・平成25年6月5日(水) 12：00～17：20
現地研修会　・・・・・・・・・・平成25年6月6日(木) 8：30～(終了時間はコースによって異なる)

会　場

土砂災害防止「全国の集い」・・島根県民会館(大ホール)
現地研修会　・・・・・・・・・・Aコース　素鷲川都市対策砂防事業（半日コース）
Bコース　石見銀山落石対策と素鷲川都市対策砂防事業（1日コース）
Cコース　石見銀山落石対策と素鷲川都市対策砂防事業
及び昭和58年豪雨激特災害箇所（1泊2日コース）

対　象

一般住民、防災担当者、砂防ボランティア、砂防工事関係者等

主催等

主催：国土交通省、島根県
後　援／内閣府、消防庁、文部科学省、厚生労働省、林野庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会、NHK、一般社団法人日本新聞協会、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人全国治水砂防協会、一般財団法人砂防・地すべり技術センター、一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構、(NPO) 砂防広報センター、全国地すべりがけ崩れ対策協議会、(社)斜面防災対策技術協会、一般財団法人建設技術研究所、一般社団法人建設広報協会、砂防ボランティア全国連絡協議会、全国治水砂防協会島根県支部、一般社団法人島根県建設業協会、島根県市長会、島根県町村会、島根県砂防ボランティア協会、公益財団法人島根県消防協会、(株)山陰中央新報社、山陰中央テレビジョン放送(株)、山陰ケーブルビジョン(株)、エフエム山陰

連携行事

土砂災害防止「全国の集い」に併せて、下記の行事を実施。
平成25年度「砂防ボランティア全国のつどい」（6月5日午前　於　島根県民会館3Ｆ大会議室）

プログラム

土砂災害防止「全国の集い」　6月5日（水）

12：00	■開　場／ポスターセッション『全国からのイチオシ土砂災害対策事例報告』
13：00	■開会式典 ○挨拶：国土交通大臣、島根県知事、松江市長 ○土砂災害防止功労者表彰
13：55	■基調講演『土砂災害に対する地域の防災力の育成』 講演者：瀧本　浩一（山口大学大学院理工学研究科　准教授）
（休憩）	
15：10	■パネルディスカッション 話題①『昭和58年山陰豪雨災害などの課題・教訓』 コーディネーター　松本　浩司（ＮＨＫ解説委員） パネリスト　清水　美重（災害体験者、浜田市三隅町向野田地区在住） 竹内　恵南（災害体験者、浜田市三隅町岡見須津地区在住） 松本　健志（山陰豪雨災害時　三隅町職員） コメンテーター　横田　修一郎（島根大学名誉教授）
15：50	○話題提供『土砂災害防止啓発紙芝居』上演 実演者：佐藤　るみ子（島根県砂防ボランティア協会）
（休憩）	
16：15	話題②『昭和58年山陰豪雨災害後の取組と今後の土砂災害減災に向けて』） コーディネーター　松本　浩司（ＮＨＫ解説委員） パネリスト　永瀬　　晃（雲南市掛合町多根の郷自主防災組織代表者） 浜﨑　正英（島根県砂防ボランティア協会会長） 江角　　功（島根県砂防課長） 横田　修一郎（島根大学名誉教授） コメンテーター　大野　宏之（国土交通省砂防部長）
17：30	■閉　会　　挨拶：熊本県土木部河川港湾局長 島根県土木部長

現地研修会　6月6日（木）

Ⓐコース（半日）【素鷲川都市対策砂防事業】
8:30 松江駅発 → 9:30 素鷲川着 → 11:00 素鷲川発 → 11:30 出雲空港着 → 12:20 松江駅着

Ⓑコース（1日）【石見銀山落石対策と素鷲川都市対策砂防事業】
8:30 松江駅発 → 10:30 → 石見銀山着（昼食含む） → 13:00 石見銀山発 → 14:00 素鷲川着 → 15:30 素鷲川発 → 16:00 出雲空港着 → 16:50 松江駅着

Ⓒコース（1泊2日）
【石見銀山落石対策と素鷲川都市対策砂防事業及び昭和58年豪雨激特災害箇所】
（1日目）8:30 松江駅発 → 9:30 素鷲川着 → 11:00 素鷲川発 → 12:00 大田着 昼食 → 13:00 石見銀山着 → 15:00 石見銀山発 → 16:30 浜田着（浜田泊）
（2日目）8:30 浜田発 → 9:00 中場地区他着 → 11:00 中場地区他発 → 11:30 浜田駅解散 → 12:00 江津着昼食 → 15:00 出雲空港着 → 15:50 松江駅着

素鷲川都市対策砂防事業
（出雲大社地内）

石見銀山落石対策事業

土砂災害防止功労者表彰

佐藤百太郎（福島県耶麻郡西会津町）

【土砂災害防止思想の普及】

福島県西会津町の滝坂地区は、国内最大級の地すべり地帯であり、氏は、昭和24年から現在まで同地すべり災害を詳細に記録しています。氏は、当該資料をもとに、地域において様々な機会を通じて災害の歴史や教訓を伝承するほか、事業用地取得に関し地域住民との調整に尽力されました。氏の資料や協力なしに迅速な対策工事の進捗は困難でありました。これら永年に亘る氏の献身的な活動は、土砂災害防止に関し、顕著な功績を残されました。

佐藤百太郎氏

松岡雅士（高知県高岡郡四万十町）

【土砂災害防止思想の普及】

氏は、山間部が多い高知県の地理性から、次世代の防災リーダーである児童に対し、永年に亘り土砂災害防止に関する授業を実践しています。特に、平成21年からは、各行政機関、教育機関、自主防災組織と連携して「土砂災害教育プログラム」の作成・実施を行い、平成23年からは「土砂災害に強い地域づくりと孤立対策」をテーマに災害時を想定した実践的な防災活動を行いました。氏の活動は、学校の防災教育から地域全体の防災活動にまで発展させるなど地域防災力の向上に大きく貢献されました。

松岡雅士氏

肘折地区自治会（山形県最上郡大蔵村）

【地域住民の生命又は身体保護】

平成24年4月に同地区内において地すべりによる河道閉塞が生じ、上流に浸水被害が発生しました。当自治会は、地すべりが再発生する危険性があったため、村の災害対策本部に24時間体制で常駐するとともに独自にミニFM局を運営し、地域住民に情報提供を行いました。また、地すべりが再発生した際には、あらかじめ策定していた避難体制に従って地域住民等65名を避難誘導し、大きな混乱やけが人を一切出すことなく無事に完了させ、人的被害を防ぎました。

24時間体制での監視活動

富山県砂防ボランティア協会（富山県富山市）

【土砂災害防止思想の普及等】

当団体は平成８年の発足以降、子ども砂防教室や地域防災リーダー育成等を目的とした防災講習会等、地域に根ざした活動を行うほか、立山カルデラ砂防体験学習会の解説員として、立山砂防施設群の歴史的価値等を県内外に普及啓発しています。また、平成16年の新潟県中越地震後の調査点検をはじめ、毎年の土砂災害防止月間に富山県・市町村と連携して、急傾斜地崩壊危険箇所及び施設点検を行うなど、土砂災害を未然に防止するため、精力的な活動を行っています。

砂防施設点検の様子

牛伏鉢伏友の会（長野県松本市）

【土砂災害防止施設における美化・清掃】

当団体は、国の重要文化財「牛伏川階段工」及び周辺施設の草刈りや清掃等の活動を平成15年から継続的に実施しています。また、平成19年には、先人の偉業を称え土砂災害防止に関心を持ってもらうため、土砂に埋もれていた牛伏川砂防施設群の発掘作業を行うとともに、技術的価値や施設効果を説明する案内看板を設置するなど、砂防施設の見学場所として整備し、当団体自ら砂防施設見学会等を開催するなど、多くの地域住民に対し砂防施設について学習する機会を創出されました。

歴史的砂防施設の維持管理活動の様子

時山自治会（岐阜県大垣市）

【地域住民の生命又は身体保護】

平成24年9月の台風16号の豪雨により岐阜県上石津町時山地区の谷川で土石流が発生し、住宅等24棟に被害が生じました。当自治会の役員は、土砂災害警戒情報が発令される中、市職員と消防団の先頭に立って危険箇所の巡視を行い、避難対象世帯・避難経路の検討や要援護者の避難方法などの検討を行いました。当自治会役員の誘導のもと、目前で土石流が発生する中、危険を顧みず身を挺して、住民18名を迅速に避難し、人的被害を防ぎました。

土石流による被害状況

大垣市上石津町消防団（岐阜県大垣市）

【地域住民の生命又は身体保護】

平成24年9月の台風16号の豪雨により大垣市上石津町時山地区の谷川で土石流が発生し、住宅等24棟に被害が生じました。当消防団時山地区分団長は、土砂災害警戒情報の発表を受け、団本部の指示を待たず、いち早く地域を巡回し、土砂災害発生の危険性を伝達しました。その後、危険箇所等を再確認し、自治会及び市職員と連携して地域住民の避難誘導や家屋被害を防ぐための土のう作りを行いました。当団員は、目前で土石流が発生する中、要援護者に対する避難介助を行うなど、身を挺して住民18名を迅速に避難させ、人的被害を防ぎました。

地区内の巡視活動の様子

いなべ市消防団（三重県いなべ市）

【地域住民の生命又は身体保護】

平成24年9月の台風16号の豪雨により、いなべ市の小滝川・西之貝戸川から、土石流発生を知らせる警報が伝送されるなど非常に危険な状態となりました。同市の2地区1,031人に避難指示が発令され、当団員は土石流発生の危険性がある中、警戒活動や住民に絶え間ない避難の呼びかけを行い、確認がとれただけでも住民285名が無事に避難所に避難できました。また、土石流危険渓流からの土砂流出に対し、周辺住宅地への土砂流入防止及び土砂撤去作業を行いました。

警戒活動の様子

馬木小学校及び馬木地区婦人会（島根県仁多郡奥出雲町）

【土砂災害防止施設における美化・清掃】

当団体は、かつて大災害が発生した砂田川に「砂田川水辺の楽校」が整備されて以降、平成15年より、地区児童と地元婦人会が防災教育の一環として施設の美化清掃活動に取り組んでいます。その結果、現在では蛍が増えるなど水質改善が顕著に見られるようになり、当該施設が、防災学習や環境学習の場として欠かせないものとなっている他、馬木地区夏祭り等のイベントが開催されるなど地域交流の中心の場として活用されています。

「水辺の楽校」での維持管理活動の様子

蒋淵小学校（愛媛県宇和島市）

【土砂災害防止思想の普及】

当校は、阪神淡路大震災を契機として平成8年から防災教育を始め、危険箇所の現地確認、避難経路の確保等、地域住民と協働した学習活動を行っています。特に、平成22年からは、児童自らが地区内の各世帯を回り、過去の被災箇所や体験談・要援護者の所在の聞き取りを行い、避難誘導を主眼とした防災マップを作成しました。このマップの製作過程においては、住民にとっても防災意識を再認識する機会になるとともに「共助」意識の向上、地域コミュニティの強化にも繋がり、地域防災力の向上に大きく貢献されました。

児童作成の防災マップ

大分県砂防ボランティア協会（大分県大分市）

【土砂災害防止思想の普及等】

当団体は平成8年の発足以降、小学生を対象とした一日砂防教室や夏休み親子砂防教室、地域住民・災害時要援護者施設を対象とした自然災害防止説明会の開催など、幅広い参加者を対象に多様な啓発活動を実施しています。特に、被災経験がない住民に対し災害の恐怖を視覚的に訴えるため、土砂災害の記録映像集を自ら作成しています。また、平成20年6月の梅雨前線豪雨や平成24年7月の九州北部豪雨災害後には、危険箇所や砂防施設整備の調査点検を行うなど、精力的な活動を行っています。

夏休み親子砂防教室の様子

◎土砂災害防止功労者表彰とは

土砂災害防止功労者表彰とは土砂災害防止に関して顕著な功労があり、他の模範として推奨に値すると認められる個人または団体を国土交通大臣が表彰するものです。

（主な表彰の対象）

①土砂災害の発生に際し、危険を顧みず、身を挺して地域住民の生命又は身体の保護に顕著な成果をあげたこと。

②土砂災害防止思想の普及又は土砂災害に対する防災体制の整備について顕著な成績又は功績があったこと。

③土砂災害防止施設における美化・清掃等や施設の維持管理に顕著な功績があったこと。

④土砂災害防止に関する研究、発明又は考案を行い、防災に顕著な成果をあげたこと。

出演者紹介

基調講演

瀧本　浩一（たきもとこういち）

山口大学大学院理工学研究科環境共生系学域 准教授／消防大学校講師

福岡県生まれ
学 位：博士（工学）。
専 門：防災とまちづくり、社会知能情報学

◆これまで就任した委員等
・国土交通省 社会資本整備審議会 河川分科会 専門委員
・消防庁 災害時要援護者の避難対策に関する検討会 委員
・消防庁・消防大学校 自主防災組織教育に関する調査研究委員会 委員など

◆著書
・改訂版地域防災とまちづくり―みんなをその気にさせる災害図上訓練 イマジン出版など

◆市民活動
・NPO 法人ぼうぼうネット理事長など

◆受 賞
・平成20 年度災害対策関係功労者表彰（国土交通省中国地方整備局長賞）
・平成19 年河川功労賞
・平成18 年度総務省防災まちづくり大賞消防庁長官賞

パネルディスカッション

【コーディネーター】

松本　浩司（まつもとひろし）

NHK放送総局解説委員室　解説委員

神奈川県生まれ
昭和60年NHK入局。
函館、北九州、長崎勤務を経て報道局社会部で記者・デスクとして主に災害取材を担当。平成21年から解説委員。
雲仙・普賢岳噴火（平成2年～）、阪神・淡路大震災（平成7年）、トルコ大地震（1999年）、台湾大地震（同）、北海道・有珠山噴火（平成12年）、三宅島噴火（同）のほか鹿児島県出水市や熊本県水俣市の土石流災害などを取材。東日本大震災では発生直後から2週間スタジオ解説を担当。その後、被災者支援や復興計画など被災地の取材を続けている。

【パネリスト】

清水　美重（しみずよしえ）

浜田市三隅町向野田（むかいのた）地区在住　主婦

島根県生まれ
教職員勤務を終え、新しい生活を始めようとした矢先、山陰豪雨災害を体験した。旧三隅町役場勤務の主人不在の中、二人の娘を連れて避難。途中に大水と遭遇するが、地域の人の機転もあり、腰まで水につかりながら役場にたどり着き九死に一生を得た。災害の体験を活かし、家族ひとりひとりが非常用持ち出し袋を常備するなどの備えを実践している。

竹内　恵南（たけうちえなみ）

浜田市三隅町岡見須津（おかみすず）地区在住　坊守

島根県生まれ
自身の生家でもある尊光寺は海沿いの岡見須津地区のなかでは高台にあって、山陰豪雨災害以前から洪水を避けるための避難場所となっていた。山陰豪雨災害時は、寺の向かいの山が崩壊（13名死亡）。竹内さんも避難した多くの住民とその瞬間を目撃した。災害の体験を踏まえ、崩壊した山地跡地には石碑が建立され、節目には地域の人々により慰霊祭が行われている。

松本　健志（まつもとつよし）

山陰豪雨災害時　三隅町職員

島根県生まれ
昭和35年旧三隅町役場に入職。厚生課長時代に遭遇した昭和58年山陰豪雨災害時には、浸水しつつあった防災無線室から当時の町長が発した「非常事態宣言」を目の当たりにし、被災後の救援物資の受け入れ、配布や防疫活動に奔走した。昭和18年には、自宅が三隅町内で発生した土砂災害に襲われ、転居を余儀なくされた経験がある。現在は居住地の地域協議会の副会長を務めている。

横田　修一郎（よこたしゅういちろう）

島根大学名誉教授（応用地質学）

大阪府生まれ
鹿児島大助教授などを経て、平成8年より島根大学総合理工学部地球資源学科教授。平成24年9月島根大学退任。平成24年10月より、現職。「地域の地形・地質特性に基づけば、将来、その地域で起こる可能性のある突発的自然現象の発生場所、影響範囲などが予測され、そして自然災害の発生を抑制するための軽減策の立案に大いに役立つ」を持論とし、平成22年より、大学教員・建設コンサルタントなどを中心メンバーとする『山陰防災フォーラム』を主宰。

永瀬　　晃（ながせこう）

地域自主組織『多根の郷』会長（島根県雲南市）

島根県生まれ
国家公務員として浜田市に赴任していた昭和58年に山陰豪雨災害を目の当たりにする。退職後の平成20年、地域自主組織『多根の郷』（昭和53年設立）会長に就任。平成22年度から本格的な取り組みを開始。平成22年度に地区全体の防災意識の向上を図ったうえで、平成23年度は地区内にある7つの自治会ごとに避難場所や避難経路を見直し、自治会単位の避難マップ作成、災害時要援護者宅周辺の環境調査を実施するなど、きめ細かな対策を進めている。

平成23年に実施した災害時要援護者宅周辺の環境調査の状況

浜﨑　正英（はまさきまさひで）

島根県砂防ボランティア協会会長

島根県生まれ
昭和37年5月　島根県入庁。平成13年3月島根県退職後、2年間の市町村勤務を経て平成21年より、現職。山陰豪雨災害時は、木次土木建設事務所（現 雲南県土整備事務所）に勤務。勤務地周辺の雨量からは、西部地区の甚大な被害は想像もできなかったという。県職員時代から島根県砂防ボランティアとして活躍する中で、ボランティア仲間と共に若い世代を対象とする啓発活動に注力。紙芝居や土砂災害の模型実験装置などを地域の協力を得ながら開発し、県内各地を奔走している。

砂防ボランティアによる紙芝居の上映

手作りで作成した模型実験装置を使って地すべりを再現

【パネリスト・コメンテーター】

江角　功（えずみいさお）

島根県砂防課長

島根県生まれ
昭和53年　島根県庁入庁。
昭和58年山陰豪雨災害時には、本庁道路課に在籍。以後昭和60年・63年と連続して県内で土砂災害が発生。県西部を中心とした災害復旧・復興に向けた事業の推進に尽力。
その後も河川・砂防部局の業務に携わり、平成25年4月より現職

【コメンテーター】

大野　宏之（おおのひろゆき）

国土交通省砂防部長

昭和56年4月　建設省入省
平成元年5月　近畿地方建設局河川部建設専門官
平成4年12月　フィリピン共和国派遣（JICA 長期派遣砂防専門家）
平成10年4月　北陸地方建設局湯沢砂防工事事務所長
平成13年4月　北陸地方整備局企画部企画調査官
平成19年4月　広島県土木部長
平成23年1月　河川局砂防部保全課長
平成24年4月　水管理・国土保全局砂防部砂防計画課長
平成25年1月　水管理・国土保全局砂防部長

【話題提供】

『土砂災害防止啓発紙芝居』上演

実演者：佐藤るみ子（島根県砂防ボランティア協会）

島根県砂防ボランティア協会では県内の小中学校への出前授業を続けていましたが、低学年の子供には、災害や防災の話は決して身近ではなく、反応がよくありませんでした。

そこで、平成18年7月に松江市郊外で発生した土石流災害の実話をもとに会員がストーリーをつくり、地域のイラストレーターにも協力をいただき「紙芝居」を作ってみました。その後、BGMとなる歌もでき、「紙芝居」の最後には、みんなで歌います。小さい子供たちには好評で、現在は幼稚園や保育園などでも上演しています。

防災教育の強化された平成23年度の学習指導要領改訂時には、校長会にも出席し、紙芝居上演を訴えました。学校等からの問い合わせも増え、上演機会は着実に増加しています。

昭和58年山陰豪雨災害

未曽有の降雨により山崩れ、がけ崩れが多発し、これによる犠牲者が死者・行方不明者の8割を占めた。
特に、河川の氾濫を警戒して、山手や高台に避難した人々が山崩れに巻き込まれ犠牲が大きくなった。
この災害以降、住民の自主防災組織が誕生し、また、島根県としてもハード整備のみならず、ソフト対策にも力を入れるようになるなど、ソフト対策が大きく意識されるきっかけとなった。

(1)気象状況

7月19日

梅雨前線は、本州の南海上まで南下し一時活動が弱まったが、中国大陸から東進してきた低気圧の接近に伴い急速に北上をはじめた。

7月20日

低気圧が日本海中部を東進するに伴い、この梅雨前線は山陰沿岸まで南下し、再び活動が活発となった。これに対し、11時10分隠岐地方に強風波浪注意報が、15時30分に県東・西部に対して大雨洪水雷雨波浪注意報が発表され、隠岐地方に対しては、22時45分、大雨・雷雨・波浪注意報が発表された。日雨量は、県中・東部で30～50mm、吾妻山で105mmであった。

7月21日

低気圧は日本海の北東部に進み、梅雨前線は南下して中国地方の瀬戸内海側に停滞した。5時、県東・西部に対して、大雨・洪水警報、雷雨波浪注意報が発表された。降水量は県西部で早朝と夜半前の時間帯に多く、日雨量は100～200mmであった。

以降24日まで、気象変化に対応し、梅雨前線の活動状況と各種実況値、レーダー資料、予測資料図、予測計測値等を使用して解析を行い、大雨・洪水警報及び注意報、強風・波浪・雷雨注意報の発表と、18回に及ぶ大雨に関する情報の発表が行われた。

7月22日

梅雨前線は北上して山陰沖に停滞し、日中は小康状態となった。しかし、低気圧が山陰沖の梅雨前線上を能登半島に向かって進んでおり、これに関連して、島根県の北西海上に高さ8～9kmの強い雨雲が現れ、北東から南西にのびる帯状となり東へ70km/hで進んでいた。これにより、まず県東部で雨がやや強くなり、時間雨量は10～20mmであった。さらに、2～3時間遅れて県西部でも雨が降り始め、次第に強くなっていった。日雨量は、県東部で30～100mm、西部で5～30mmであった。

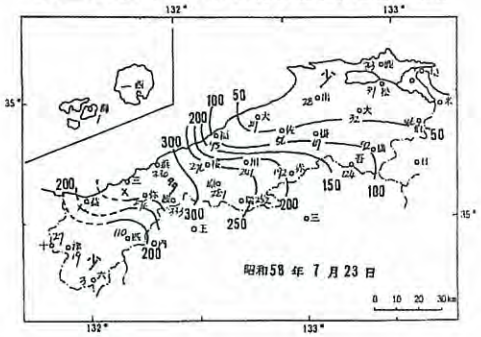
7月23日

低気圧が能登半島方面にあり、これを通る梅雨前線の活動は活発で、西の方から南下を始めた。夜半から夜明前にかけて雨雲は急激な変化と強まりを増し、東北東から西南西にのびて島根県全域を覆い、東南東に移動した。朝方には中国山地上空に停滞気味となり、強い雨雲の部分は県西部にかかった。雨は0時頃から県西部の平野部で急速に強まって大雨となり、0時35分に県東・西部に対し大雨洪水警報が発令された。1時頃から3時にかけて、桜江町、浜田市、川本町方面で時間雨量50～70mmの強い雨を記録し、次いで4時頃から9時頃にかけて、浜田市、三隅町、弥栄村、益田市方面で時間雨量40mm～90mmの強い雨を記録した。この2度の強雨によって、県西部を中心に、先行降雨と相俟って、洪水、山崩れ、がけ崩れ、土砂流による甚大な被害が発生した。その後、降雨は次第におさまり、西部では昼前に、東部では夜に入りやんだ。

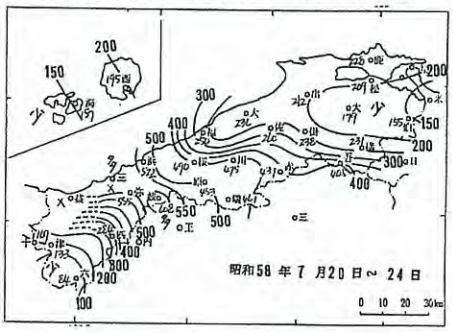
7月24日

梅雨前線は、太平洋高気圧の勢力強化にともない日本海南部に北上し、明け方にかけて隠岐地方で10～60mmの降雨があったほかは特に降雨はなく、天候は落ちついた。

雨量分布図(昭和58年7月23日0時～23日24時)



雨量分布図(昭和58年7月20日0時～23日24時)



(2) 被害状況

7月20日から降り始めた雨は、21日夜までに県西部を中心に多いところでは200～260㎜に達し、河川は増水し土砂は崩れやすい状態となっていた。この先行降雨に続き、22日夜から23日早朝にかけて、250～300㎜に達する降雨があり、浜田では測候所開設以来の時間雨量91㎜を記録し、連続雨量は500㎜を超える局地的な豪雨となった。これによって島根県内で、土石流285箇所、地すべり7箇所、急傾斜地の崩壊775箇所計1,067箇所で土砂災害が発生、多くの尊い人命を失うとともに、甚大な被害が発生した。

三隅川、益田川、周布川等中小河川では堤防の決壊が相次ぎ濁流が住宅地に流れ込み、多くの家屋の流失や床上・床下浸水等の被害が発生した。大規模な山崩れやがけ崩れが続発し、これによる家屋の倒壊で多数の死傷者が出た。また国鉄山陰本線、国道9号などの鉄道網や道路網もマヒ状態となり、被災地では外部との通信が途絶えたため多くの市町村で孤立地区がでた。

この災害による総被害額は約3,661億円の巨額に達した。このうち、土木関係被害と農林水産関係被害が全体の7割近くを占めている。被害額の内訳としては、土木関係被害が約1,291億円で35.27%、農林水産関係被害が約1,265億円で34.56%、さらに商工業関係被害が約559億円で15.28%となっている。

山地崩壊の状況（那賀郡三隅町）

水没した三隅町（那賀郡三隅町）

土石流に襲われた家屋（益田市）

■人的被害及び家屋被害

人的被害は266名に達し、このうち死者・行方不明者は半数近くの107名であった。これを原因別にみると、山崩れ、がけ崩れによる倒壊家屋の下敷きとなったり、崩土の生き埋めによるものが91名と全体の85%を占め、続いて濁流に流されて水死したものが11名と続いている。また、地域別にみると、特に被害が激甚であった浜田市、益田市、三隅町の3市町だけで、人的被害は204名にのぼり、全体の76.7%を占めるに至っている。3市町の死者・行方不明者に関しては、実に87名、全体の81.3%に及んでいる。

この災害での人的被害の特徴は、過去に崩れたことのないところで相次いで山崩れが発生したこと、河川の氾濫を警戒して、山手や高台に避難した人々が、山崩れにまきこまれ犠牲となったことである。

家屋被害については、河川の氾濫や山崩れ、がけ崩れによって各地で家屋の流失、倒壊、浸水等が続出した。住家被害は17,600棟、被災者は、31,697名に及んでいる。特に三隅町及び益田市では、三隅川及び益田川の堤防が決壊したことにより、家屋に何らかの被害を受けた世帯は、それぞれ全世帯数（昭和55年10月1日　国勢調査）の60%及び46%と壊滅的な被害であった。

人的被害状況

（県警調べ）

	死亡	死亡原因						行方不明	重傷	原因内訳			軽傷	計
		山崖崩れ		水死		その他				山崖崩れによる家屋倒壊	山崖崩れに巻き込まれ	川に転落流され		
		家屋の倒壊	土砂	避難途中	その他									
浜田市	22	22	—	—	—	—		—	4	4	—	—	13	39
益田市	31	24	4	1	2	—		1	19	18	1	—	48	99
江津市	1	—	—	—	1	—		—	—	—	—	—	4	5
三隅町	33	21	6	—	5	1		—	21	20	—	1	12	66
金城町	—	—	—	—	—	—		—	1	1	—	—	5	6
弥栄村	2	2	—	—	—	—		—	5	5	—	—	4	11
川本町	3	3	—	—	—	—		—	—	—	—	—	1	4
桜江町	1	1	—	—	—	—		3	4	3	—	1	5	13
瑞穂町	2	—	—	—	2	—		—	1	—	1	—	—	3
大和村	—	—	—	—	—	—		—	2	1	—	1	3	5
羽須美村	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	1	1
美都町	8	8	—	—	—	—		—	4	4	—	—	—	12
匹見町	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	2	2
小計	103	81	10	1	10	1		4	61	56	2	3	98	266
合計	103	91				12		4	61				98	
比率(%)	100.0	88.3				11.7				91.8	3.3	4.9	100.0	

出典：「昭和58年7月豪雨災害の記録」

平成24年度
「土砂災害防止に関する絵画・作文」受賞者

絵画部門

■小学生の部

最優秀賞（国土交通大臣賞）

加藤みすず（神奈川県　海老名市立上星小学校6年）

優秀賞（事務次官賞）

小林　柊斗（滋賀県　大津市立仰木の里東小学校1年）
恵中　春斗（和歌山県　田辺市立芳養小学校2年）
萩原　成美（群馬県　利根郡片品村立片品北小学校3年）
永井　香音（愛媛県　大洲市立平小学校3年）
栗城幸士郎（福島県　会津坂下町立坂下小学校4年）
大野本美天（愛媛県　西予市立渓筋小学校4年）
熊谷　希望（岩手県　一関市立室根西小学校5年）
小山田航佑（山形県　河北町立溝延小学校5年）
岩淵　晶子（福島県　会津坂下町立坂下小学校5年）
中村　勇太（長野県　伊那市立伊那東小学校5年）
西村　　薫（愛知県　名古屋市立吉根小学校5年）
河合　由貴（岡山県　岡山市立江西小学校5年）
工藤　沙耶（青森県　平川市立平賀東小学校6年）
齊藤　慎大（宮城県　美里町立不動堂小学校6年）
河野　萌音（滋賀県　長浜市立長浜北小学校6年）
平井　創貴（滋賀県　野洲市立中主小学校6年）

■中学生の部

最優秀賞（国土交通大臣賞）

山本　日向（鹿児島県　鹿児島市立星峯中学校2年）

優秀賞（事務次官賞）

田邊　慈紀（愛知県　名古屋市立振甫中学校1年）
中山しずく（茨城県　結城市立結城中学校2年）
大保菜南子（新潟県　長岡市立東中学校2年）
嶋田　健太（和歌山県　和歌山市立明和中学校2年）
藤元　樹里（鹿児島県　枕崎市立枕崎中学校2年）
工藤　千穂（岩手県　八幡平市立西根中学校3年）
中村　　真（宮城県　美里町立不動堂中学校3年）
佐々木愛莉（秋田県　能代市立能代第一中学校3年）
吉田　　匠（山形県　山形市立第四中学校3年）
荒井沙音美（栃木県　栃木市立栃木南中学校3年）
荒木　涼花（群馬県　太田市立宝泉中学校3年）
内田　春香（山梨県　甲州市立勝沼中学校3年）
松林　祐希（兵庫県　加古川市立中部中学校3年）
盛田知佳子（香川県　宇多津町立宇多津中学校3年）
木須菜々美（佐賀県　佐賀県立武雄青陵中学校3年）

作文部門

■小学生の部

最優秀賞（国土交通大臣賞）

萩原　琢斗（群馬県　高崎市立中室田小学校4年）

優秀賞（事務次官賞）

森　　遥臣（鹿児島県　薩摩川内市立長浜小学校1年）
草間　陽大（茨城県　常総市立三妻小学校4年）
髙木　桜花（千葉県　香取市立小見川中央小学校4年）
白根　拓実（滋賀県　東近江市立能登川南小学校4年）
西本　優花（奈良県　野迫川村立野迫川小学校4年）
白石　果穂（愛媛県　今治市立亀岡小学校4年）
関　　悠河（茨城県　守谷市立黒内小学校5年）
炭谷　希萌（新潟県　上越市立直江津南小学校5年）
三宅　　至（長野県　学校法人才教学園 才教学園小学校5年）
村上　桃香（宮城県　名取市立愛島小学校6年）
星　　拓（福島県　天栄村立湯本小学校6年）
鈴木たまえ（神奈川県　湯河原町立吉浜小学校6年）
飯田　優斗（島根県　大田市立北三瓶小学校6年）
小松　彩菜（宮崎県　小林市立小林小学校6年）
吉住　美玲（宮崎県　宮崎市立大淀小学校6年）

■中学生の部

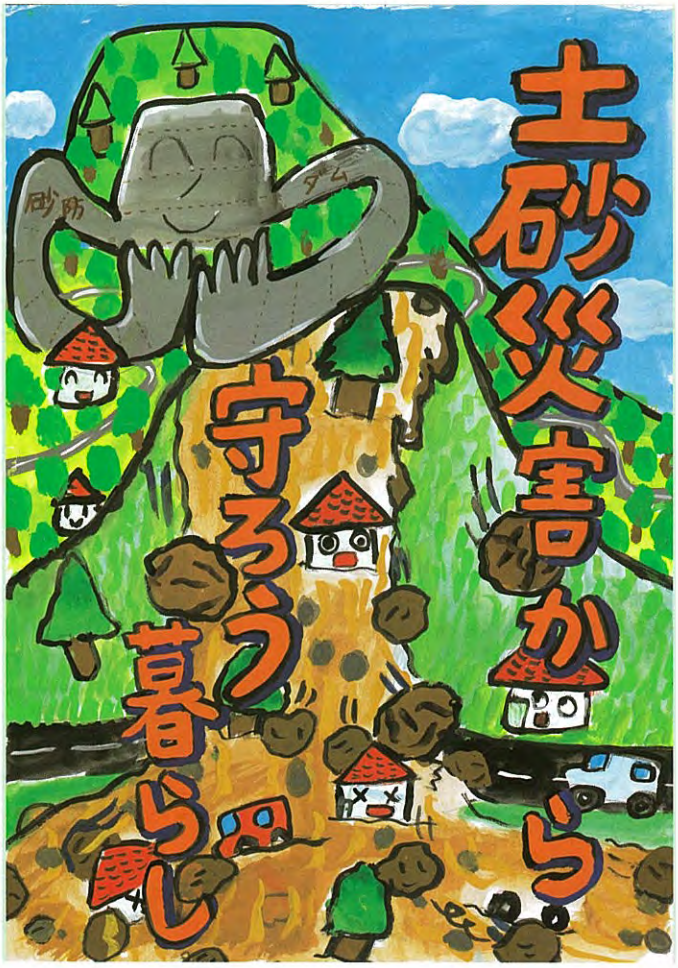
最優秀賞（国土交通大臣賞）

三輪　育弓（愛知県　犬山市立犬山中学校3年）

優秀賞（事務次官賞）

齋藤　梨奈（宮城県　名取市立第二中学校1年）
大村　　遥（群馬県　前橋市立第三中学校1年）
長峯　有彩（山口県　周南市立周陽中学校1年）
寺﨑　　藍（佐賀県　吉野ヶ里町立東脊振中学校1年）
土持　恒貴（宮崎県　三股町立三股中学校1年）
大坪　奏祐（鹿児島県　鹿児島市立鹿児島玉龍中学校1年）
竹内　　翔（東京都　新宿区立牛込第三中学校2年）
山本　光輝（岐阜県　可児市立広陵中学校2年）
庵野　真代（和歌山県　近畿大学附属和歌山中学校2年）
酒井　聖輝（徳島県　上勝町立上勝中学校2年）
津久井杏樹（栃木県　矢板市立片岡中学校3年）
野口　　瞳（埼玉県　杉戸町立杉戸中学校3年）
冨田　滉一（神奈川県　小田原市立城北中学校3年）
深尾　理史（滋賀県　多賀町立多賀中学校3年）
尾﨑伸太朗（京都府　京都府立洛北高等学校附属中学校3年）
宅見沙耶佳（香川県　高松市立玉藻中学校3年）

最優秀賞（国土交通大臣賞）
受賞作品（絵画）



絵画部門　小学生の部　最優秀賞（国土交通大臣賞）
神奈川県　海老名市立上星小学校6年　加藤みすず

絵画部門　中学生の部　最優秀賞（国土交通大臣賞）
鹿児島県　鹿児島市立星峯中学校2年　山本　日向

最優秀賞（国土交通大臣賞）受賞作品（作文）

小学生の部　『ぼくたちの命を守る砂防ダム』

群馬県高崎市立中室田小学校　四年　萩原　琢斗

ぼくたちは砂防ダムの見学をしてきました。見学をしてきて強く思ったことは、砂防ダムがぼくたちの生活を守ってくれているんだという思いです。この気持ちは、土石流の模型器具を使った実験をした時から感じ始めました。でも、最初のうちは、模型がよくできていて本物のようだなとか、土砂の代わりにビー玉を流せば下流に置かれた家・ビル・橋も流されてしまうだろうなというような軽い気持ちでした。実際にぼくがビー玉を流す実験役をした時は、ビー玉が家や橋をはじきとばす様子をおもしろがって見ていました。ところが、次の実験で気持ちが変わってきました。その実験は、けい流沿いに砂防ダムを造っておき、ビー玉を流すと下流の様子がどうなるかを見ていくものです。友達がぼくと同じようにビー玉を流しました。ビー玉は勢いよく流れ落ちましたが、小さなダムがすべてのビー玉を食い止めてしまったのです。と中に砂防ダムを造っておくと、下流の町を救うことができるのでした。

実験が終わると、本物を見に行きました。榛名川砂防ぜきです。このダムは榛名神社の横にあり、ぼくの家からそんなに遠くではありません。でも、見るのは初めてです。このダムは昔に造られたもので、石で組まれていました。間近で見るととても大きく、がんじょうそうなのでおどろいてしまいました。

災害という言葉は時々ニュースで聞くことがありますが、このような施設がぼくたちの生活を災害から守っているんだと初めて知りました。

バスに乗っているとき、「なるほど」と思う話がありました。それは、三・一一の東日本大震災が起こったときのことです。地震が発生するとすぐに国交省の係の人たちが、砂防ダムにい常がないかどうかを点検したという話です。もし、い常に気がつかなければ、大雨がふったときにダムの役目を果たせなくなるからです。ぼくはすぐに点検してくれて「ありがたい」と思いました。

三番目に見た堀の沢という場所では、ダムのこう造にすごい工夫がありました。中央付近が数本の鉄の柱で区切られて、今まで知っているダムとは形がちがうものでした。この造りにすると、流されてきた岩や土砂をせき止めることができますが、水はすきまから流せるそうです。このような工夫があれば、ダムがあふれることはないでしょう。事前学習をしていたとき、インターネットでいろいろな種類の砂防ダムを見てきましたが、目の前にあるダムの大きさや工夫のすごさを見て、自分たちの住む地域が災害から守られているんだなと感じました。

最後に河川工事の現場を見させてもらいました。そこは、ぼくの家の近くだったので河川工事をしていることは知っていました。しかし、説明を聞くと「大きな秘密」がかくされていたことがわかりました。秘密の一つ目は、川に段差がつけられていることです。この段差をつけることで水流が弱まり、はんらんから地域を守っていくのです。秘密の二つ目は、魚道の整びです。生き物が住めるかんきょうにも気を配っていたのでびっくりしました。そして、秘密の三つ目は工事の仕方です。ぼくには工事の仕方はよくわかりませんが、川の水質を汚さないように気を配っているということにおどろきました。工事といえば、「汚れ」という言葉が想像できますが、ここでは当てはまりませんでした。

今回の見学では、ぼくたちのくらしを守るために、たくさんの苦労や工夫があることを知ることができました。これまでは、ふだん見なれていた滑川ですが、今は、「あそこに災害を防ぐ工夫があるんだ」「上流では砂防ダムが土砂を食い止め、守ってくれているんだ」と思うようになりました。また、大雨がふると、堀の沢の砂防ダムに岩がせき止められているのかな？と思いました。

学校では、「安全な暮らしを守る」という単元で、警察や消防、そして、日常生活に欠かせない「水」について学習してきましたが、災害から生活を守る砂防ダムについても学習を深めることができました。この見学で、一番良かったところは、堀の沢の砂防ダムのところです。それは、クラス全員がダムに向かって、「ぼくたち、私たちのくらしを守ってくれて、ありがとうございます。」と言えたことでした。

中学生の部　『土砂災害について考える』

愛知県犬山市立犬山中学校　三年　三輪　育弓

「土砂災害」と聞いて、少し内容は違うかもしれませんが、私が真っ先に思い出すことは、小学生の時に家族で行った北海道旅行のことです。洞爺湖の周辺で自然の美しさを楽しむ為に出かけて行ったのですが、自然の美しさとともに、自然の恐ろしさについても学ぶことができたのでした。

そう感じることができた場所は、有珠山ふもとにある洞爺湖ビジターセンターでした。

ここには有珠山が噴火した際の映像や実際に被害を受けた当時の自動車等の展示物がありました。噴火にともない、地盤の変化や土砂が流れたりする現象が発生して町全体に影響があったようです。

初めは火山の噴火の記録展示だけだと思っていましたが、この近くにある火口周辺までいける散策路を歩いたことで、私の記憶の中でより印象に残る場所となりました。

そこは、当時の被害の状態がそのまま残っていました。国道であったまっすぐの道がS字状になったままだった。土砂が流れてきて電信柱の上の方まで土の中に埋もれてしまっていた。取り残されたような車両もあり、その周辺はその時も湯気が地面から少しずつ出ていた。

まるで、さきほどの展示映像の世界に、そのまま入ってしまった感覚で、背筋が寒くなった記憶が今でもあります。

私自身が肌で感じたことはこれくらいですが、最近よくテレビで土砂災害の映像を目にします。特に何度も大雨が間隔を開けずに降りそそぎ、地盤が緩み土砂崩れ等が起きたりし、非常に大きな災害になるケースが多く見受けられます。それにより悲しいニュースが流れてきたりすると、とても心が痛みます。

一瞬にしていつもの生活が奪われてしまう状況になってしまうことは、想像するだけで言葉も出なくなってしまいます。

これらの土砂災害に関しては、遠い世界の話ではなく、私の身近でもおきる災害だと思っており、特に気になってしまいます。

なぜそう思うかというと、以前町内の回覧板で私の住んでいる市の防災マップが回ってきましたが、それを見てからでした。

この防災マップは、「市指定の避難所」や「避難の際に目標となる建物」等が記載してある避難に関する地図でした。それとともに危険な箇所の表示として、「土砂災害発生の恐れがある箇所（土砂災害警戒区域・特別警戒区域）」の表示もされていました。

ここで、とても衝撃を受けました。それは、私の家のすぐ近くに「土砂災害発生の恐れがある箇所」の中の「がけ崩れ」の可能性がある場所の表示がされていたからです。

また、私が毎日通っている通学路でも、数ヶ所同じような「がけ崩れ」の可能性がある箇所としての設定がされていました。

毎日私が過ごしている場所が、危険を含んだところであったと分かり、ニュースでの内容が現実のものと重なってきて、怖さを感じました。あの旅行での映像と実際の災害場所保存の対比を自分自身の生活内で感じるようなものです。

がけ崩れの可能性があるので、「集中的な大雨が降らないで欲しい」、「地震が起きたりしないで欲しい」と願うばかりです。

しかし、集中的な大雨や地震等は、私達では何とも防ぐことはできません。

その時がもしも来たらどうしよう・・・

また、あの旅行のことが思い出されました。

2000年に発生した有珠山の噴火の際ですが、建物や町中の物に対しては大きな被害をもたらしたようですが、人に関しては大きな被害がなかったと言われていたような気がしました。インターネットで調べてみましたが、確かにそうであったようです。

そこに書かれていたのは、あの場所に関係する方はこの自然災害が発生する可能性と一緒に生活していると認識しており、「予知」と「予想される災害の洗出し」、そして「発生に対する意識と行動」と「教育」を日頃から重要視され、実際に対応された結果、迅速な行動が取れ、人の被害が少なかったようです。

ただ怖いと思う気持ちだけをもつのではなく、発生しそうな状況かどうかの予測と、もしも発生した場合にどう逃げるか等の行動を、災害が発生する前に考えておくことが重要であるということを過去の実例から教えられた気がします。

日頃から、自然災害が発生したことに備えておくことが重要であり、それはただ『物』を準備するだけではなく、『考え』も整理し、準備しておくことが、改めて大切なことと思えてきました。

私もこれからのことを事前に考えておけるようになりたいと思います。